

県産米、魅力アップを



活動方針などを確認する
出席者ら＝美濃市生櫛、
県中濃総合庁舎

生産者、販売者が協力して県産米の振興を図ろうと、生産者側の県内の7農協やJA全農岐阜、JA岐阜中央会、販売者側の県食糧連絡会などが組織に名を連ねた。

役員選出で、会長に「まんま農場」（高山市）の小林達樹社長を

生産者、販売者 振興策探る

県や県内のJAなどが参加する「ぎふ米競争力強化推進会議」の第1回会議が17日、美濃市生櫛の県中濃総合庁舎で行われ、ぎふ米フォーラムの開催や県水稻生産振興方針の策定準備を本年度行うことなどを確認した。

（三輪真大）

美濃市で「競争力強化会議」

選んだ。

小林会長は「全員で強力なタッグを組んで、振興に努めたい」などとあいさつした。

この後、県農業技術センター、県中山間農

業研究所の研究員が、本年度の課題研究を、名古屋大などが情報通信技術（ICT）を活用した米作りの事例研究をそれぞれ発表した。